

第 27 回 参議院選挙総括

2025.9.20

立憲民主党三重県連

1. はじめに

三重県連選挙区においては、立憲民主党公認の小島ともこ候補が、自民党の吉川候補に対して、約 6.9 万票の大差をつけて当選した。この結果だけを見れば、選挙区選挙は明確な勝利と言える。

しかし、小島さんの得票数は 6 年前の芳野さんと比べ、増えてはいない。吉川さんの減少約 10.3 万票と、投票率が上がったことによる 8.4 万票の大部分が、参政党 難波さんに持っていかれたとの見方も可能であり、その意味で大きな課題を残した。

(参考 1) 6 年前のとの比較 (小選挙区・万人)

	2019	2025	増分
芳野・小島	33.4	33.9	+ 0.6
吉川	37.9	27.6	△10.3
難波	—	20.2	+ 20.2
N 党	4.1	1.9	△2.2
合計	75.4	83.8	+ 8.4

比例区選挙においては、自民党(23.31%)に対して、18.3%とかなり差がついた結果となった。昨年の衆議院選挙においては、三重県は比例区で自民党を上回る好結果を残すことができたものの、これと比べると後退した。

これらの点について、なぜそうなったのかを検証し、次回の国政選挙に向けて課題を整理する。

2. 選挙区選挙

候補者の擁立は、立憲・国民両党と連合、新政みえの四者の代表者によって、早く

から検討がなされたが、具体的な人選には苦勞した。勝てる候補者をという思いは四者で共有されていたが、小島とも子さんを立憲民主党公認で擁立するという決定の記者会見は、今年の2月15日と、かなり遅れてしまった。

この間中心となって調整にあたったのが、8月9日に亡くなった故三谷哲央さんだった。体調が十分でない中、最後の力を振り絞って責任を果たした三谷さんには、心から感謝する。

小島とも子さんの課題は ①県議の選挙区であった桑名郡市を除き、ほぼ無名であった認知度を急速に高めること、②立憲・国民支持層を早急に固めること、そして③いまの自民党や吉川さんに批判的な自民党支持層や無党派層の支持を獲得することの三点だった。

連合や地協を中心とする労働組合、自治体議員、国会議員やその支持者が一体となって活動した。各地区の集会場はほぼ満席となるなど、確かな手ごたえを感じる事ができた。ネット広告の活用やリーフレットの配布、ミニ集会など、そして何よりも小島さんの力のある演説によって認知度は高まり、また立憲支持層の支持率は、告示日前に8割を超えた。関係者の皆さんに、心から感謝する。

これに対して相手の吉川さんは、自身の政治資金収支報告書不記載問題や自民党の不人気によって支持が広がらなかった。党独自の調査によっても、小島さんとの差は次第に拡大していった。最終的には7.6ポイント・6.3万票差がついた結果となった。

(参考2) 党調査による得票率の推移 (%)

	4/19	6/14	7/4	7/20結果
小島	25.8	24.6	30.6	40.6
吉川	19.4	21.3	21.2	33.0
難波	7.1	—	12.6	24.2
決めていない	47.7	—	34.5	—

告示日以降の最大の課題は、立憲・国民支持者以外、即ち無党派層や自民や吉

川さんに批判的な自民党支持層への支持拡大だった。残念ながら、これらの層への働きかけは十分とは言えず、自民党批判票、無党派層の多くが難波さんに流れたと思われる。

(注) 正確には、国民民主党支持者も従来の支持者は小島さんで固まったものの、昨年の総選挙以降ネットなどを通じて拡大した新たな支持層では、小島さんの支持は必ずしも高くはなかった。

なぜそうなったのかを考えると、第一に活動が不十分であったことが挙げられる。これらの人々に対する活動としては、駅立ち、街頭演説、中小企業とそこで働く人々へのあいさつ回りなどが考えられるが、小島さんの限られた時間の中で、これが十分であったか、疑問が残る。本来は、告示日前の4～6月の間に組織固め以外の活動により力を配分すべきだった。

第二に、ネットの活用も本人の発信はなされたものの、YouTube などを通じた小島さんの演説や、その切り取りの発信は限られたものだった。県の選対本部や県連の対応が不十分だったのは明らかであり、力のある演説が高く評価されていただけに、残念であり課題を残した。

第三に、政策面では、党の事前の調整に基づき、コメの問題や消費税減税などの物価対策を中心に取り挙げ、応援弁士や小島さんの演説でも必ず物価問題に言及するなどの対応がなされた。一方的な自民党批判だけではなく、幅広い有権者に訴えるとの戦術に基づくものだった。しかし本人政策ビラや法定ビラは早い時期にまとめて作成されたこともあり、必ずしもこれらの争点を明確に反映したものとは言えなかった。

全国的な傾向として、最後の一週間は「外国人」が大きな関心事となり、三重選挙区においても参政党の難波さんが急浮上した。それまでに自民党支持者で今回吉川さんに批判的だった人々や無党派層をしっかりと固めていれば、難波さんに流れた20万票のうちある程度は防ぐことができたのではないか。

次回の総選挙や3年後の参議院議員選挙において勝利するためには、日常の活動において幅広く有権者に働きかけ、立憲民主党の支持を拡大するとともに、選挙時には他党支持者や無党派層への働きかけを前提とした組み立てが必要である。

なお地域別にみると、小島さんが平均以上に得票したのは大台・大紀・玉城と桑名・

いなべなどの北勢地方。吉川さんは北勢で全体的に苦戦した。難波さんは四日市や鈴鹿で平均以上に得票しており、これが同地域における小島さんの伸びに影響を与えたと考えられる。

(参考3)

- 立憲：平均得票率 0.41 を上回った（0.43 以上）のは、大台 0.53、
桑名 0.49、大紀 0.48、朝日 0.45、東員 0.44、玉城・いなべ各 0.43
- 吉川：平均得票率 0.33 を下回った（0.31 以下）のは、桑名 0.26、
朝日 0.27、いなべ・東員・川越 各 0.29、四日市・鈴鹿各 0.30
- 難波：平均得票率 0.24 より高かった(0.26 以上)のは、川越 0.28、
四日市 0.27、鈴鹿・名張・亀山・いなべ各 0.26

3.比例区選挙

三重県における比例区選挙の結果を見ると、立憲は昨年の総選挙において自民を上回る 26.7%を獲得したが、今回は 18.3%と 3 年前、6 年前の参議院選挙とあまり変わらない水準に戻ってしまった。自民党は、昨年総選挙において 3 年前の参議院選挙と比較して 10 ポイント下げ 26.0%となったが、今回は更に 3 ポイント下げている。国民は 11.4%と昨年の総選挙の勢いを維持。参政党は 12.6%だった。

(参考4) 三重県の比例得票割合 (%)

	6年前参議院選挙	3年前参議院選挙	昨年衆議院選挙	今回参議院選挙
立憲	16.9	17.8	26.7	18.3
自民	34.6	36.1	26.0	23.3
国民	11.9	6.1	10.0	11.4
参政	——	——	2.5	12.6

(参考 5) 比例投票先調査 (%)

() 内は全国調査

	4/19	6/14	7/4	7/20 投票結果
立憲	18.7 (13.7)	16.0 (13.7)	17.8 (14.5)	18.3 (12.5)
自民	14.3 (15.7)	16.0 (17.6)	16.5 (17.0)	23.3 (21.6)
国民	11.7 (12.8)	7.6 (7.5)	6.8 (7.1)	11.4 (12.9)
参政	1.6 (2.1)	3.3 (4.0)	6.6 (7.0)	12.6 (12.6)
決めていない	35.8 (35.0)	39.0 (36.0)	28.0 (29.7)	— —

党調査に基づき、この間の各党比例投票先の推移を見ると、立憲民主党に投票するとした人の割合は 4 月調査以降 18%前後であり、結果も同様だった。これに対し自民党は 4 月調査では 14.3%と危機的状況であり、その後も 2 ポイントしか戻さなかった。しかし投票結果は 23.3%と低水準ながら 10 ポイント戻し、立憲と 5 ポイント上回り比例第一党となった。国民民主党は 4 月調査から 7 月調査へと支持率を半減させ低迷したものの、投票結果は 11.4%と 4 月水準、昨年の総選挙水準まで戻した。参政党は 4 月時点で 1.6%に過ぎなかったが、その後倍々ゲームで増やし、12.6%となった。これらの推移は、党の全国調査においても、ほぼ一致する。

三重県と全国それぞれを比較して、共通して言えることは、立憲は 4 月以降 7 月 20 日の結果も含めてほぼ横ばい。つまり伸びが全くなかった。自民の比例得票は直近の 7 月 4 日調査と比較して三重で 7 ポイント、全国で 5 ポイント底上げした。国民も 4 月から 7 月にかけて低迷したが、結果を見ると 7 月調査と比べ 5 ポイント上乘せして、比例投票で野党第一党となった。参政党は 4 月 2%程度からスタートし、結果は

12.6%となった。決して自民や国民が4月以降順調だった訳ではなかったが、最後の2週間で5ポイント以上上乗せした。参政党も含めて7月4日調査に対して最後に5ポイント以上伸びたのに対し立憲はほぼ横ばいだった。

三重県の比例選挙における立憲の最後の伸び悩みの原因は、全国でも同様の結果となっているため、三重県固有の原因があったのか不明である。むしろ三重における比例18.3%という数字は全国と比べかなり高いし、国民や参政党にも差をつけることが出来たとも言える。しかし、三重県において、総選挙で比例で自民党を上回った勢いは今回明らかに失われたことは、真摯に受け止めなければならない。

なお、地区別に見ると立憲民主党比例票は、四日市・鈴鹿を除く北勢地区と小島さんゆかりの大台周辺、熊野が健闘した。自民は鈴鹿以北と名張で得票できず、国民民主党が鈴鹿以北で平均を超えた。参政党は特別高い地区は見当たらなかった。

(参考6)

- 立憲：平均（0.18）より高かった（0.20以上）のは、朝日・大台 0.23、
桑名・東員 0.22。熊野・いなべ 0.21、木曽岬・多気・玉城・御浜 0.20
- 自民：平均（0.23）より低かった（0.21以下）のは、朝日 0.18、四日市 0.19、
名張・菰野 0.20、桑名・鈴鹿・東員・川越 0.21
- 国民民主：平均（0.11）より高かった。（0.13以上）のは、朝日・川越 0.15、
四日市・鈴鹿 0.14、桑名・菰野 0.13
- 参政：平均（0.13）を上回ったのは、鈴鹿・亀山・いなべ・川越で 0.14

政権交代を掲げる総選挙においては、野党第一党である立憲民主党に比例票が集まりやすい傾向にある。そのことを差し引いても昨年の総選挙時と比較して、今回比例票の減少は深刻であり、選挙直前2週間の伸び悩みと並んで党本部でしっかりと検証し、対策を考える必要がある。

参考3で明らかのように、三重県では比例において、自民が3年前の参議院選挙と比べ、昨年衆議院選挙で10.1ポイント減らし、立憲が9.9ポイント増やした。しかし今回は、自民が12.8ポイント減らしたものの立憲は0.5ポイントしか増えず、参政党が10.1ポイント増やした。つまり今回選挙では、自民比例票が立憲ではなく、参政党に

流れたことを強く認識する必要がある。

なお、選挙区選挙において、国民民主党の支持者の応援をいただく中で、集会などで立憲民主党の運動・演説をすることは限界があり、比例選挙において無党派層に立憲をどう訴えていくべきか、工夫が求められる。

4. 今後の課題

選挙区における勝利という今回の結果をもたらした最大の要因は、立憲・国民・連合・新政みえの協力が、高いレベルで実現したことである。今後とも相互の信頼関係をより深めていかなければならない。特に国民民主党との関係強化は、政権交代を実現するためには中央レベルで不可欠であるが、三重においては、その先駆けとなるよう更なる努力が必要である。

自民党と並ぶ勢力を持つ県議会会派 新政みえの存在は、他県にないものであり今後とも強化していかなければならない。次期統一選挙に向けて、候補者の擁立をしっかりと進める必要がある。また、立憲民主党に理解を持つ市町会議員の数を増やし、党としての基盤を強化すること、自治体議員における女性議員の数を増やすことも重要である。このため、自治体議員・女性議員ネットワークの活動を強化する必要がある。

働く世代からの支持を拡大するために、青年局の活動と並んで SNS のより効果的な活用が必要不可欠である。日進月歩で進む技術をフォローし活用できるための体制、人材の蓄積を県連においても行っていくことが求められる。

次期衆議院議員選挙において、現在の小選挙区 2、比例 1 の確保を確実なものとし、更にその上乗せを目指すために、立憲、国民、連合、新政みえの枠組みを前提としつつ、県連の活動をより活発化しなければならない。